

放送大学通信

# on air

オン・エア

no. 76

発行日 平成16年12月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

## CONTENTS

放送大学で キャリアアップを目指して	1
副学長 中島 尚正 教授 新井 郁男 教授 大場 登	
平成17年度開設改訂科目紹介	5
平成17年度大学院 単位認定試験時間割(第1・2学期)	6
平成17年度第1学期学部 単位認定試験時間割	7
平成17年度第2学期学部 単位認定試験時間割	8
平成17年度学部開設改訂科目一覧	11
平成17年度大学院開設改訂科目一覧	14
教務のお知らせ	15

# 放送大学で キャリアアップを目指して

## キャリアアップの支援

副学長 中島 尚正



キャリアアップは、生涯学習の中で重要な位置を占めています。そのために放送大学では、教養を深めるための一般的な科目とともに、キャリアアップの支援を目的とした科目の開講と充実にも努めて参りました。学校図書館司書教諭、看護師、臨床心理士の資格や教員専修免許

状の取得に資する科目などが、このような趣旨の科目に該当します。

キャリアアップに資する科目の受講者は、受講の目的が資格取得のように明確であること、関連分野の実務経験が様に豊富であること、実務に拘束されることが多く学習に使える時間に制約があることなど、本学の一般学生の平均的な学習への取り組みとは状況を異にしていることが窺えます。つまり、本学全体として学生の学習目的や取り組みが多様になってきているといえます。上述のような学習動機や学習目的の多様化、ひいては生涯学習に要請される内容の多様化は、キャリアアップだけに限られることなく、最近では社会の構造変化や価値意識の変化によって、ますます促進されているといえます。このような状況において重要なことは、学習者を一つの型にはめて教育目標を設定して教育するのでは

なく、多様な学習者の資質、知識、とりわけ生活歴や職歴などを生かして、より能力が発揮できることを目標とした教育を実現することです。放送大学は放送をメディアとした教育を前提としていますから、多様な学習者への対応を図ることは、通学制における少人数の対面授業に比べるとより困難が伴います。しかし、看過して済まされることではありませんし、カリキュラムの組み方や教育システムを工夫することによって改善を図っていかねばなりません。

放送大学においては、すでに、キャリアアップ支援も含めて、前述のような趣旨の下に多様化への取り組みを開始しています。できるだけ早く多くの学習者に満足していただけるような段階に達するように努めたいと思います。

ところで、最近では、キャリアアップの意味が拡張されて使われ始めていますが、この点に

についても触れておきましょう。従来からのキャリアアップの意味は、「仕事をする上で必要な資質や能力を向上させること」でした。それが最近では、仕事に関する資質や能力の向上だけでなく、「人生を豊かに過ごすための資質や能力を向上させること」も含めた意味にも使われてきているのです。このような変化は、向上させる対象である「キャリア」の持つ意味

が変化してきたことによるものです。つまり、従来の「キャリア」は職業や職歴のように経済価値と密接に結びついた意味に限定されていましたが、最近では、学習活動、地域活動、家庭のマネジメントのように、経済活動には直接結びつかない日常的な生活を通じた「人生の経歴」をも含むように拡張されているのです。

この広義のキャリアやキャリア

アップは、わが国でも国や自治体の生涯学習政策の関係者の間では、すでに広く受け入れられています。

本学の授業科目の多くは、人生の経歴に資することを大きな目標にしてきました。この実績を生かして、広義のキャリアアップの要請にも十分お応えできるように努めて参りたいと思います。

## 教養と資格取得の融合

放送大学は「各専門分野における学術研究を通じて新しい教養の理念を追求し、放送を活用して大学教育を行い、併せて広く生涯学習の要望に応えること」(学則)を目的とした大学です。「教養」は、前4世紀のギリシア文化のもとで形成された人間教育の理念に由来する言葉で、人間が人間としてすぐれた者になるための基礎ですが、従来、「教養」は、とかく、「教養をひけらかす」といった言い方が示すように、身体にぶら下げる装飾品とか、単なる「物知り」といったニュアンスで使われてきました。

しかし、放送大学が追求する「教養」は、「新しい教養」とあえて「新しい」という形容詞が付されていることが示唆しているように、そういったニュアンスを払拭し、急速に進展する科学技術の光と影の両方を踏まえた「教養」を標榜していると思います。「教養」については、平成14年2月に、中央教育審議会が「新しい時代における教養教育の在り方について」と題する答申を出しています。そこで注目されるのは、教養教育を幼・少年期からの課題としていることですが、大学教育については、「社会が複雑かつ急激な変化を遂げる中で、各大学には、幅広い視野から物事を考え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成が一層強く

期待されている」という認識にたつて、「新たに構築される教養教育は、学生にグローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基礎を与えるものでなければならない」と述べています。そして、「各大学は、理系・文系、人文科学、社会科学、自然科学といった従来の縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や、専門教育の単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある」と提言しています。

いま大学は、こうした「新しい教養」理念にたつて改革を進めることが期待され、その実現に向けた努力が行われつつありますが、放送大学は、20年前の発足当初から、テレビとラジオという放送メディアを中心にした通信制の大学として、この新教養理念を先導的に追求してきました。

ここで重要なことは、こうした「新しい教養」は、中教審答申も指摘しているように、人間としての在り方や生き方の根幹をなすものであるだけでなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考の技法の獲得を目標とする

## 教授 新井 郁男



という意味において、まさに個々人のキャリアアップにつながる基礎・土台でもあるといえるでしょう。

放送大学では、さまざまな資格の取得に資する授業科目を設定しています。教育職員免許法に定める「教科に関する科目」と、「教職に関する科目」に対応する科目の一部を開設し、それを履修することによって、幼稚園、小・中・高等学校、特殊教育諸学校または養護教諭の教員免許状を有している方が各都道府県教育委員会が行う「教育職員検定」によって上位あるいは他教科、他校種の免許状を取得できるようにしています。全く新たに免許状を取得することはできないのですが、小学校の免

許状を持っている人が中学校の免許状を取得したり、中学校の英語の免許状を持っている人が小学校の免許状を取得したり、普通免許状を持っている人が特殊教育免許状を取得したり、学校図書館司書教諭の資格を取得したりすることができるようになっています。また、大学院の科目を科目履修生として履修することによって、専修免許状の取得に必要な単位の全部または一部を修得することもできます。最近では、異校種間の人事交流が重要になっており、実際に推進しているところが増えていますので、現職の先生方には積極的に放送大学をご利用いただきたいものです。また、地域人材の活用ということで、地域の人々が自分の得意な分野の知識・技術などを活かして、学校の教育活動に協力することも盛んになっていますので、現職の教員だけでなく、そうした活動を行っている人あるいは行おうとしている人で教員免許状をお持ちの方は、放送大学を活用してキャリアアップを図られることをお勧めいたします。

資格の取得まではできません

が、文部科学省の委嘱によって実施される司書講習や社会教育主事講習を受けようとする方が、放送大学で講習相当科目の単位を修得すれば、講習における当該科目の単位修得が免除されます。博物館の専門的な職である学芸員の資格取得に必要な科目の一部についても単位を修得することもできます。

また、卒業をめざす全科履修生の場合には、所定の期間在学し所定の単位を修得すれば、司法試験、公認会計士試験、不動産鑑定士試験の第一次試験が免除になりますし、社会保険労務士試験と税理士試験の受験資格が得られます。

さらに、放送大学では、平成16年1月から、専修学校における学修を放送大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができるようになりました。専修学校と放送大学に同時に在学し、専門士と学士の両方の資格を取得できる道が開かれたわけです。ただ、専修学校での学修を放送大学の単位として認定するに当たっては、専修学校の科目内容が放送大学の教育に準ずるかどうかをあらかじめ審査することになっていま

すので、専修学校関係者には、放送大学との連携協力をご検討いただきたいと思っているところです。

以上のように、放送大学においては、各種の資格の取得を通じてキャリアアップを図る道を開いています。かならずしも制度化された資格の取得をめざすのではなく、自分の職業分野あるいはあらたな職への挑戦をめざして、専門性を高めるために入学あるいは科目履修をしている方が多数おられます。急激に変化する現代社会においては、いずれのキャリアにおいても、先に述べたような「新しい教養」が求められています。放送大学は、学術研究を通じて新しい教養を追求する新しい大学ですが、その新教養教育は、専門教育とか職業教育といった教育の対極をなす教育なのではなく、キャリアアップを図る専門教育、職業教育でもあります。そのような意味において、資格の取得をめざす方も、それに必要な科目の単位の修得だけでなく、新しい教養理念を念頭に置いて、幅広い学習に取り組まれることを期待しています。

## 「臨床の知」の構築 「臨床心理士」資格

## 臨床心理プログラム 教授 大場 登

臨床心理士は実に多岐にわたる領域で仕事をしている。皆さんが比較的好く耳にされるところから挙げれば、児童相談所(虐待被害を受けた子ども達を一時保護し、場合によって、家庭から分離して児童養護施設等への処遇を決定するという脈絡でご存知の方が多いだろう)や児童養護施設(様々な事情で親元に暮らすことのできない3歳以上高校卒業までの子ども達の養育にあたり、必要な場合は心理療法的なケアも行う)、児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設・家庭裁判所・少年鑑別所・少年院などに始まり、教育センター・障害児療育センター・心

身障害者コロニー・重症心身障害児施設・精神保健福祉センター・保健所・リハビリテーションセンター・病院の精神科や小児科・心療内科・NICU(新生児集中治療室)精神科クリニック、保護観察所や刑務所、大学の学生相談室、公立中学校をはじめとする学校のカウンセリングルーム(スクールカウンセラー)、精神障害者社会復帰施設、企業のメンタルヘルス相談室、HIV感染者・AIDS患者相談室、犯罪被害者支援センターや警察署の少年サポートセンター、DV被害者相談センター、緩和ケア病棟やホスピス、老人性痴呆疾患療養病棟、グルー

プホーム、開業心理療法機関その他、臨床心理士の働く機関を挙げているだけで、与えられた紙数が埋まってしまう程である。

このような実践的・臨床的な「場」で、私達が会おう方々(「クライアント」「患者」「入所者」「施設利用者」「対象者」)その他様々な名前と呼ばれている)と専門的な仕事を営もうとするならば、そのためには、随分と長期間にわたる教育と研修が必要であることは皆さんにも、ごく当然のこととして理解していただけるのではないだろうか? だからこそ、「臨床心理士」試験受験資格として、基本的には、大学院修士課程



機関と委託契約を結んでいる)で、年間90時間の臨床心理実習を受けている。無事卒業できた院生は、卒業一年の臨床心理実務経験を経て、はじめて受験資格を得ることとなる。

ところで臨床心理学とはどのような学問であるのだろうか？実は臨床心理学は、「伝統的な学問」に対して、ひとつの新たな学問のあり方を提起していると表現することもできよう。西暦1900年に精神分析の創始者 Freud,S. は、それまでの(いわゆる)ノイローゼ患者との治療経験から、有名な『夢判断』を公刊した。今日の心理療法学のひとつのルーツと言っても過言ではない。この精神分析学もフロイトの心理療法実践の中、すなわち心理学的な症状や問題を抱えた、生きた人間との実践的・臨床的な取り組みの真只中から生まれたものである。そしてフロイトの実践の根本は、苦悩する人間の「心」「身体」によって表現される「語り」や「夢」「身動き」や「空気」にじっと目を凝らし、耳を傾け、自らの心身で受けとめ続けることであった。この点に限れば、それはフロイトの時代と今日の臨床心理学、そして、今日の様々な臨床心理学諸学派の中においても、一致して共有される根本的な姿勢であって、言葉を換えれば、「かかわりの姿勢」「関与しつつの観察(Sullivan, H.S.)」であると言えることができると思われる。

「かかわり」や「自らの心身を関与させつつ」という姿勢は、「対象」とは明確に分離された「研究者」による「観察」を前提とする近代以降の学問的姿勢とは、かなり異なる特徴を持った姿勢である。「研究者自らの心身」をも括弧に入れることなく、むしろ意識的に「重要な観察対象のひとつ」とすることこそ、臨床心理学という学問の基本的特徴と言えるであろう。例をあげれば、クライアントや施設利用者の心身の「訴え」や「言葉」に耳を傾けている時に、私たち臨床心理士自身が抱く「気持ち」、私たち自身の胃・腸や血流、心臓や汗腺、肩・腰・背中が感じる「身体感覚・内

臓感覚」「訴え」を受けとめたその晩に私たち自身に訪れるかもしれない「夢」といったものをも丹念に見つめてゆく姿勢と言ったらよいだろうか。不思議なことだが、私たちがクライアントの心身が語る「言葉」に「耳を傾け」「自らの心身」をもって受けとめ続けてゆく時、クライアントの心身・クライアントの内外は「変容のプロセス」を歩み始める。この「変容のプロセス」に「関与しつつの観察・同行」をすることこそ、臨床心理士の仕事の基本であり、同時に、この「同行」の記録こそが臨床心理学という学問のもっとも基本的にして、もっとも貴重な研究素材であると思っている。「関与しつつの観察」によって動きは始めるクライアント内外(クライアント個人のいわゆる内界と養育者・家族・友人・所属組織などクライアントを取り巻く周囲の星々)の「変容の過程」に同行する臨床心理学においては、たったひとつの「事例」にも信じがたい時間が要請されるし、記録の困難さも尋常ではない。フロイト自身は、自らの臨床実践から得られた知見を、時代の影響もあって、自然科学的モデルとして理論化することとなったが、現代の臨床心理学の課題は、実践的・臨床的な営みの中から得られた経験を、独自の「臨床の知」として提示することとよいであろう。

人間が存在する以上、病・死・障害・不安・痛み・老い・(権)力・性・家系・暴力・復讐・嫉妬・弱さ・個人と集団・マイノリティといった様々の困難な現象もまた共に存在する。ひょっとしたら、このような「困難な現象」こそが人間存在を特徴づけているとも言えるかもしれない。学問が、「人間存在」や「人間に不可避の困難な現象」をも研究しようとするのであれば、臨床心理学の提示する「臨床の知」は、ひとつの意義深い貢献となるはずである。

## 平成17年度開設改訂科目紹介

### 社会調査('05)

東北大学大学院 教授 原 純輔  
社会と経済 助教授 浅川 達人

社会調査士という資格をご存知でしょうか。テレビやラジオの天気予報では近年、気象のスペシャリストとして気象予報士が活躍しています。社会調査においても、2004年に初めて専門職が誕生しました。社会調査士がそれです。平成17年度に開講される「社会調査('05)」は、社会調査士資格取得に必要な科目のひとつです。

グローバル化、少子高齢化、情報化といった激しい社会変動の渦中にある現代社会を的確に捉え、それらへの対応を検討するためには、社会調査が必要不可欠です。その社会調査の水準を一定以上に保つために、社会調査に関する教育体制を整備し、専門的職業とし

ての資格の制度化をはかるために、社会調査士資格認定機構が2003年に設立され、2004年5月に初めて167名の方が社会調査士として認定されました。

この社会調査士資格を取得するためには、大学を卒業し、なおかつ定められた授業科目(標準カリキュラム)の単位をすべて修得する必要があります。放送大学では平成16年度現在、それらの授業科目として「社会調査の基礎('01)」と「統計学入門('04)」の2科目を開講しております。平成17年度からは「社会調査の基礎('01)」の代わりに「社会調査('05)」が開

講されます。「社会調査('05)」では、社会調査の基本的事項の説明はもちろん、調査の設計と実施方法、集計・分析から報告に至るまで、豊富な実例を用いつつ説明することを心がけました。資格取得はもとより、社会調査に携わる(携わるであろう)多くの方々に、役立てていただきたい科目です。



原教授



浅川助教授

### 英語基礎A('05) ~ Welcome to Japan

人間の探究 助教授 大石 和欣  
人間の探究 助教授 大橋 理枝

### 英語総合A('05) ~ 歴史・文化・社会

東京大学大学院 教授 草光 俊雄  
人間の探究 助教授 大石 和欣

英語も車の運転も似ています。人や国それぞれで使い方もマナーさえも違います。規則は大切ですが、規則を知っているからといって運転がうまいわけでもありません。使わなくても生活できますが、運転できれば便利です。唯一異なる点は英語はどれほど使っても環境破壊にはならないことでしょうか。新開講の『英語基礎A('05)」と『英語総合A('05)」は英語をもかく使ってみてもらうことを意図しています。

『英語基礎A』では、日本人女性がイギリス人男子学生とアメリカ人女性をホームステイさせるという設定のもと会話が進展します。挨拶からはじまり、様々な経験をしながら日本文化を紹介して

いきます。現実に入りうる状況ばかりです。基礎的文法も扱いますが、使って楽しく、役立つ表現ばかりの「テーマ学習」・「裏シナリオ」コーナーなど盛りだくさんの内容を講師とゲストの小気味よい掛け合いで展開していきます。

『英語総合A』はイギリスやアメリカの歴史・文化・社会を探究しながら、より深い英語の理解と実際的な運用を目指します。ダーウィン、ディケンズ、アメリカ独

立宣言、E.H.カーなどの名著・名作をつまみ食いし味わいながら、講師とゲストが専門家へのインタビューを交えて、気さくに、そして知的にトークを繰り広げます。そもそもなぜ英語が世界共通語なのか？スポーツの母国イギリスはなぜ試合に弱いのか？ 皆さんも一緒に英語を育む歴史・文化・社会を探究しませんか？ 知の水平線が広がるはずですよ。



大橋助教授



草光教授



大石助教授

# 平成17年度大学院単位認定試験時間割

## (第1学期)

## (第2学期)

時限	平成17年7月31日(日)	平成17年8月2日(火)
1 9:15 } 10:05	総合情報学(02) 情報システム科学(02) 芸術文化政策(02) 生涯学習論(02)	地域文化研究(02) 生命環境科学(05) 都市計画論(02) 学校臨床心理学(05) 〔健康科学(02)〕 〔学校臨床心理学(02)〕
2 10:25 } 11:15	総合人間学(02) 複雑システム科学(02) 福祉政策(02) 情報教育論(02)	比較文化研究(05) 健康科学(05) 経営システム(02) 社会心理学特論(05) 〔日本文化研究(02)〕 〔教育文化論(02)〕 〔社会心理学特論(02)〕
3 11:35 } 12:25	言語文化研究(02) 物質環境科学(05) 福祉政策(02) 才能教育論(02) 〔地球環境科学(02)〕	日本文化研究(05) 経営システム(05) 教育経営論(04) 家族心理学特論(02) 〔比較文化研究(02)〕 〔経営システム(02)〕
4 13:15 } 14:05	文化人類学研究(05) 地球環境科学(05) 法システム(02) 逸脱行動論(02) 〔言語文化研究(02)〕 〔物質環境科学(02)〕	言語文化研究(05) 経済政策(05) 学校システム論(02) 精神医学(02) 〔文化人類学研究(02)〕 〔経済政策(02)〕
5 14:25 } 15:15	表象文化研究(02) 法システム(02) 教育文化論(05) 臨床心理学特論(05) 〔生命環境科学(02)〕 〔臨床心理学特論(02)〕	国際関係論(02) 地方自治政策(05) 教育課程編成論(02) 認知行動科学(02) 〔経済政策(02)〕
6 15:35 } 16:25	国際社会研究(05) 生命環境科学(02) 法システム(02) 学校臨床社会学(03) 臨床心理面接特論(02) 〔情報化社会研究(02)〕	情報化社会研究(05) 物質環境科学(03) 経済政策(05) 認知過程研究(02) 〔国際社会研究(02)〕 〔地方自治政策(02)〕
7 16:45 } 17:35	地域文化研究(02) 技術社会関係論(04) 道徳性形成論(03) 心理学研究法特論(02) 〔生活科学(02)〕	国際社会研究(02) 生活科学(05) 地方自治政策(04) 環境工学(03) 教授・学習過程論(02)
8 17:55 } 18:45	地域文化研究(02) 生活科学(02) 環境マネジメント(02) 発達心理学(02)	言語文化研究(05) 数理システム科学(05) 芸術文化政策(02) 現代身体教育論(02) コミュニティ・アプローチ特論(03) 〔数理システム科学(02)〕

時限	平成18年1月29日(日)	平成18年1月31日(火)
1 9:15 } 10:05	国際関係論(02) 地方自治政策(05) 教育課程編成論(02) 認知行動科学(02)	表象文化研究(02) 法システム(02) 教育文化論(05) 臨床心理学特論(05)
2 10:25 } 11:15	情報化社会研究(05) 物質環境科学(03) 経済政策(05) 認知過程研究(02)	国際社会研究(05) 生命環境科学(02) 法システム(02) 学校臨床社会学(03) 臨床心理面接特論(02)
3 11:35 } 12:25	国際社会研究(02) 生活科学(05) 地方自治政策(04) 環境工学(03) 教授・学習過程論(02)	地域文化研究(02) 技術社会関係論(04) 道徳性形成論(03) 心理学研究法特論(02)
4 13:15 } 14:05	言語文化研究(05) 数理システム科学(05) 芸術文化政策(02) 現代身体教育論(02) コミュニティ・アプローチ特論(03)	地域文化研究(02) 生活科学(02) 環境マネジメント(02) 発達心理学(02)
5 14:25 } 15:15	地域文化研究(02) 生命環境科学(05) 都市計画論(02) 学校臨床心理学(05)	総合情報学(02) 情報システム科学(02) 芸術文化政策(02) 生涯学習論(02)
6 15:35 } 16:25	比較文化研究(05) 健康科学(05) 経営システム(02) 社会心理学特論(05)	総合人間学(02) 複雑システム科学(02) 福祉政策(02) 情報教育論(02)
7 16:45 } 17:35	日本文化研究(05) 経営システム(05) 教育経営論(04) 家族心理学特論(02)	言語文化研究(02) 物質環境科学(05) 福祉政策(02) 才能教育論(02)
8 17:55 } 18:45	言語文化研究(05) 経済政策(05) 学校システム論(02) 精神医学(02)	文化人類学研究(05) 地球環境科学(05) 法システム(02) 逸脱行動論(02)

(注)〔 〕の科目は、平成16年度末で閉講される科目で、再試験者を対象とし第1学期のみ実施します。

# 平成17年度第1学期

	平成17年 7月23日(土)	平成17年 7月24日(日)	7月25日(月)	平成17年 7月26日(火)
1 9:15~10:05	人体の構造と機能( 05 ) 計算科学( 03 ) 地域福祉論( 03 ) 人間活動の環境影響( 05 ) 〔人体の構造と機能( 01 )〕	統計学入門( 04 ) 老年期の心理と病理( 02 ) 環境社会学( 03 ) 仏教の思想( 05 ) ヨーロッパの歴史( 05 ) 博物館経営・情報論( 04 ) イギリス文学( 03 ) 〔古代日本の歴史( 01 )〕	休 日	現代思想の地平( 05 ) 生涯学習と自己実現( 02 ) 自己を見つめる( 02 ) 日本の古典 - 古代編( 05 ) ドイツの言語文化( 02 ) 〔社会調査の基礎( 01 )〕 〔日本政治思想史( 01 )〕
2 10:25~11:15	疾病の成立と回復促進( 05 ) 若者の科学離れを考える( 04 ) 技術の分析と創造( 02 ) ネットワーク産業論( 04 ) 天体物理学入門( 03 ) 〔疾病の成立と回復促進( 01 )〕	社会調査( 05 ) カウンセリング概説( 05 ) 経済法( 04 ) 現代東アジアの政治( 04 ) 応用音楽学と民族音楽学( 04 ) 〔カウンセリング概説( 01 )〕 〔ヨーロッパの歴史( 01 )〕		近代哲学の射程( 03 ) 家庭・学校と地域社会( 04 ) 学習科学とテクノロジー( 03 ) 裁判の法と手続( 04 ) ヨーロッパ政治史( 05 ) 東アジアの中の中国史( 03 ) フランスの言語文化( 02 ) 〔社会学入門( 01 )〕 〔中国明清時代の文学( 01 )〕
3 11:35~12:25	看護学概説( 05 ) 高齢者福祉論( 03 ) イノベーション経営( 05 ) 数学とコンピュータ( 03 ) 物質の科学・反応と物性( 04 ) 〔看護学概説( 01 )〕 〔イノベーション経営( 01 )〕	人文地理学( 04 ) 日本国憲法( 05 ) 近代の教育思想( 03 ) 心理臨床の世界( 03 ) ヘーゲルを読む( 03 ) 日本の古代( 05 ) 中世日本の物語と絵画( 04 )		現代社会と著作権( 02 ) 近代詩歌の歴史( 04 ) 教育の方法( 04 ) 応用心理学( 05 ) 比較政治学( 04 ) 科学の哲学( 04 ) 博物館概論( 03 ) 中国の言語文化( 02 ) 〔立憲主義と日本国憲法( 01 )〕
4 13:15~14:05	英語( 03 ) ドイツ語( 02 ) フランス語( 02 ) ロシア語入門( 05 ) 韓国語( 02 ) 日本語( 03 )-外国語としての- 保健体育( 05 ) 在宅看護論( 04 ) 〔保健体育( 01 )〕 〔ロシア語( 01 )〕	英語( 03 ) 英語( 02 ) 英語総合A( 05 ) ドイツ語( 02 ) フランス語( 02 ) 中国語入門( 05 ) 韓国語( 02 ) 〔英語( 01 )〕 〔中国語( 01 )〕		21世紀の社会学( 05 ) 世界の産業再編成( 04 ) 臨床心理学概説( 03 ) 日本政治思想史( 05 ) 上代の日本文学( 04 ) 古代地中海世界の歴史( 04 ) 20世紀の中国文学( 05 ) 〔刑法( 01 )〕
5 14:25~15:15	英語( 03 ) フランス語( 02 ) 中国語入門( 05 ) スペイン語( 03 ) 日本語( 02 )-外国語としての- 基礎看護学( 04 ) 〔中国語( 01 )〕	英語基礎A( 05 ) ドイツ語( 02 ) 中国語( 04 ) ロシア語入門( 05 ) スペイン語( 03 ) 〔英語( 01 )〕 〔ロシア語( 01 )〕		近代日本における外国文学の受容( 03 ) 教育社会学( 03 ) 心理学研究法( 03 ) 刑法( 05 ) 現代日本の政治( 03 ) 芸術・文化・社会( 03 ) 自然と文化の記号論( 02 ) 〔近代の日本文学( 01 )〕
6 15:35~16:25	身体福祉論( 03 ) 食品の成分と機能( 03 ) 公的扶助( 02 ) 線型代数学( 04 ) 物性物理学入門( 04 ) 〔宇宙の観測( 01 )〕	アーツ・マネジメント( 02 ) 人格心理学( 04 ) 現象学の基礎( 04 ) 日本語の歴史( 05 ) 考古学と歴史( 04 ) 〔ヨーロッパ政治史( 01 )〕 〔日本語の歴史( 01 )〕		国語学概論( 02 ) 発達障害児の心と行動( 02 ) 国際化と教育( 03 ) ユング心理学( 03 ) 日本経済史( 03 ) 金融論( 04 ) 近代の日本文学( 05 ) 〔ヨーロッパと近代世界( 01 )〕
7 16:45~17:35	初等微積分学( 02 ) 現代科学と医療( 04 ) 障害者福祉論( 05 ) 建築意匠論( 04 ) 運動と力( 05 ) 分子生物学( 05 ) 〔障害者福祉( 01 )〕 〔運動と力( 01 )〕 〔分子生物学( 01 )〕	心理学初歩( 02 ) 岐路に立つ大学( 04 ) 国際関係法( 02 ) 西洋政治思想史( 05 ) 近代日本と国際社会( 04 ) 〔西洋政治思想史( 01 )〕		倫理思想の源流( 05 ) 比較教育制度論( 03 ) 障害児教育指導法( 02 ) 現代の社会心理学( 04 ) 市民生活と行政法( 02 ) 国際経済学( 05 ) 近代ヨーロッパ史( 05 ) 〔倫理思想の源流( 01 )〕 〔国際経済学( 01 )〕
8 17:55~18:45	線型代数入門( 03 ) 物質の世界 - 化学入門( 02 ) 衣生活の科学( 02 ) 経営学( 03 ) 管理会計( 03 ) 宇宙からの情報( 05 ) 〔現代社会とスポーツ( 01 )〕	感情と認知( 03 ) 紛争と民法( 02 ) 第三世界の政治( 05 ) 博物館資料論( 04 ) 〔第三世界の政治( 01 )〕 〔仏教思想( 01 )〕 〔平安朝の文学( 01 )〕		人間科学の可能性( 03 ) 障害児教育論( 02 ) 現代行政分析( 04 ) ジェンダーの社会学( 03 ) ドイツ観念論への招待( 03 ) 〔現代アメリカ思想( 01 )〕

(注)〔 〕の科目は、平成16年度末で閉講される科目で、再試験者を対象とし第1学期のみ実施します。

# 学部単位認定試験時間割

平成17年 7月27日(水)	平成17年 7月28日(木)	平成17年 7月29日(金)
政治学入門( 03 ) 財政学( 05 ) 日本の散文 - 古典編( 03 ) 東南アジアの歴史( 02 ) 芸術の理論と歴史( 02 ) [ 労働と生活の心理学( 01 ) ] [ 経済学史入門( 01 ) ] [ 現代の哲学( 01 ) ]	変化する地球環境( 04 ) 実験科学の方法( 02 ) 生活の経済( 04 ) マスメディア論( 03 ) 物質の科学・量子化学( 03 ) [ 公衆衛生( 01 ) ] [ 情報工学と社会( 01 ) ]	現代社会におけるライフコース( 03 ) 患者からみた医療( 03 ) 経営工学総論( 04 ) 流体的地球像( 03 ) [ 生物学の歴史( 01 ) ]
発達と教育の心理学的基盤( 05 ) 生涯発達心理学( 02 ) 欧米経済史( 04 ) フィールド社会心理学( 04 ) 朱子学と陽明学( 04 ) 中世日本の歴史( 03 ) 現代における伝統演劇( 02 )	宇宙とその歴史( 04 ) 東アジア・東南アジアの住文化( 03 ) リハビリテーション( 03 ) 産業と労使( 03 ) 持続的発展と国際協力( 03 ) 情報技術と社会( 05 ) 量子力学( 05 ) [ 量子力学( 01 ) ]	物理の世界( 03 ) 世界の食糧問題とフードシステム( 03 ) 簿記入門( 02 ) 都市システム工学( 03 ) 多変数の微積分( 03 ) 光と電磁場( 05 ) [ 光と電磁場( 01 ) ]
生命と人生の倫理( 05 ) 表象としての日本( 04 ) 教育の社会文化史( 04 ) 幼児の教育と保育( 04 ) 産業社会と消費社会の現代( 03 ) 自我の社会学( 05 ) 近世の日本文学( 03 ) 近世日本の歴史( 03 ) [ 知覚心理学( 01 ) ]	宇宙像の変遷と科学( 04 ) 脳の健康科学( 02 ) 会計学( 04 ) 日本の製造業の新展開( 05 ) 計算力学( 04 ) 数理モデルとカオス( 05 ) 生命と金属の世界( 05 )	確率・統計の基礎( 05 ) 都市と人間( 03 ) 企業ファイナンス入門( 04 ) 統計学とその応用( 05 ) 動物の行動と生態( 04 ) [ 生活の経営( 01 ) ] [ 確率と統計( 01 ) ] [ 宇宙の進化( 01 ) ]
東アジアのなかの日本文化( 05 ) 乳幼児心理学( 02 ) スクールカウンセリング( 05 ) 雇用・福祉・家族と法( 03 ) 中央アジアの歴史・社会・文化( 04 ) 文化人類学( 04 ) [ 教育心理学通論( 01 ) ] [ メディア論( 01 ) ]	基礎生物学( 03 ) 使える数理リテラシー( 03 ) 公衆衛生( 05 ) エネルギー工学と社会( 03 ) [ 母子の健康科学( 00 ) ] [ 現代産業組織論( 01 ) ] [ 微生物機能に学ぶ化学( 01 ) ]	国際経営論( 05 ) 生物学の歴史( 05 ) 日本の食文化( 04 ) 生活の動態と経営( 05 ) マーケティング論( 04 ) 進化する宇宙( 05 ) [ 家族論( 01 ) ]
心の科学( 04 ) 国文学入門( 04 ) 学習科学( 04 ) 道徳教育論( 05 ) 都市社会の人間関係( 04 ) 書誌学( 03 ) アメリカの歴史( 04 ) 西洋音楽の諸問題( 05 ) [ 現代経済学( 01 ) ]	数学の歴史( 03 ) 中小企業の挑戦( 03 ) 感染症と生体防衛( 04 ) ベンチャー企業論( 05 ) 現象の数理( 03 ) 日本列島の地球科学( 03 ) [ 科学の思想と論理( 01 ) ] [ ベンチャー企業論( 01 ) ]	持続可能な消費と生活者( 03 ) 科学・技術と社会( 03 ) 日本法文化の形成( 03 ) 食品の安全性を考える( 04 ) 住計画論( 02 ) 情報産業論( 04 ) 物質の科学・有機高分子( 02 )
法の世界( 04 ) 心の健康と病理( 04 ) 国際政治( 04 ) 現代経済学( 05 ) ギリシャ哲学( 03 ) 韓国朝鮮の歴史と社会( 04 ) [ 歴史学の現在( 01 ) ]	ゲノム生物学( 03 ) 家族のストレスとサポート( 04 ) 光電子技術とIT社会( 04 ) 数学基礎論( 03 ) エネルギーと熱( 03 ) 多様性の生物学( 03 )	社会福祉入門( 04 ) 物質の科学と先端技術( 04 ) 服飾と心理( 05 ) 社会保険と市民生活( 04 ) 人間と自然( 03 ) [ データの科学( 01 ) ]
哲学入門( 04 ) 教育の哲学( 03 ) 教育評価( 03 ) 商法( 03 ) 紛争の社会学( 04 ) ドイツ文学( 03 ) [ 子どもと若者の文化( 01 ) ] [ 西洋音楽の歴史( 01 ) ]	次世代育成を考える( 03 ) 技術者倫理( 04 ) 集団と環境の生物学( 03 ) 国際共生と健康( 04 ) 人工物と設計( 04 ) [ カオス学入門( 01 ) ]	変動する社会と暮らし( 02 ) アグリビジネス( 02 ) 物質・材料工学と社会( 05 ) 幾何入門( 04 ) 植物の生理( 04 ) [ 日米欧の企業経営( 01 ) ] [ がんの健康科学( 01 ) ]
経済学入門( 04 ) 心理学史( 05 ) 生徒指導( 03 ) 児童の臨床心理( 03 ) 日本政治史 - 20世紀の日本政治( 03 ) コミュニティ論( 02 ) 日本文学における住まい( 04 ) フランス文学( 03 )	問題解決の発想と表現( 04 ) 住まいの構造・構法( 04 ) 児童家庭福祉( 03 ) 複素数と関数( 04 ) 相対論( 04 ) [ 材料工学と社会( 01 ) ]	比較技術の文明論( 02 ) アジアの風土と服飾文化( 04 ) 社会福祉の国際比較( 02 ) バイオテクノロジーと社会( 05 ) 物質の科学・有機構造解析( 03 ) 細胞生物学( 03 ) [ バイオテクノロジー( 01 ) ]

# 平成17年度第2学期

# 学部単位認定試験時間割

	平成18年 1月22日(日)	1月23日(月)	平成18年 1月24日(火)	平成18年 1月25日(水)	平成18年 1月26日(木)	平成18年 1月27日(金)	平成18年 1月28日(土)
1 9:15~10:05	ゲノム生物学(03) 家族のストレスとサポート(04) 光電子技術とIT社会(04) 数学基礎論(03) エネルギーと熱(03) 多様性の生物学(03)	休 日	持続可能な消費と生活者(03) 科学・技術と社会(03) 日本法文化の形成(03) 食品の安全性を考える(04) 住計画論(02) 情報産業論(04) 物質の科学・有機高分子(02)	数学の歴史(03) 中小企業の挑戦(03) 感染症と生体防御(04) ベンチャー企業論(05) 現象の数理(03) 日本列島の地球科学(03)	心の科学(04) 国文学入門(04) 学習科学(04) 道徳教育論(05) 都市社会の人間関係(04) 書誌学(03) アメリカの歴史(04) 西洋音楽の諸問題(05)	近代日本における外国文学の受容(03) 教育社会学(03) 心理学研究法(03) 刑法(05) 現代日本の政治(03) 芸術・文化・社会(03) 自然と文化の記号論(02)	法の世界(04) 心の健康と病理(04) 国際政治(04) 現代経済学(05) ギリシャ哲学(03) 韓国朝鮮の歴史と社会(04)
2 10:25~11:15	次世代育成を考える(03) 技術者倫理(04) 集団と環境の生物学(03) 国際共生と健康(04) 人工物と設計(04)		社会福祉入門(04) 物質の科学と先端技術(04) 服飾と心理(05) 社会保険と市民生活(04) 人間と自然(03)	身体福祉論(03) 食品の成分と機能(03) 公的扶助(02) 線型代数学(04) 物性物理学入門(04)	アーツ・マネジメント(02) 人格心理学(04) 現象学の基礎(04) 日本語の歴史(05) 考古学と歴史(04)	国語学概論(02) 発達障害児の心と行動(02) 国際化と教育(03) ユング心理学(03) 日本経済史(03) 金融論(04) 近代の日本文学(05)	哲学入門(04) 教育の哲学(03) 教育評価(03) 商法(03) 紛争の社会学(04) ドイツ文学(03)
3 11:35~12:25	問題解決の発想と表現(04) 住まいの構造・構法(04) 児童家庭福祉(03) 複素数と関数(04) 相対論(04)		変動する社会と暮らし(02) アグリビジネス(02) 物質・材料工学と社会(05) 幾何入門(04) 植物の生理(04)	初等微分積分学(02) 現代科学と医療(04) 障害者福祉論(05) 建築意匠論(04) 運動と力(05) 分子生物学(05)	心理学初歩(02) 岐路に立つ大学(04) 国際関係法(02) 西洋政治思想史(05) 近代日本と国際社会(04)	倫理思想の源流(05) 比較教育制度論(03) 障害児教育指導法(02) 現代の社会心理学(04) 市民生活と行政法(02) 国際経済学(05) 近代ヨーロッパ史(05)	経済学入門(04) 心理学史(05) 生徒指導(03) 児童の臨床心理(03) 日本政治史 20世紀の日本政治(03) コミュニティ論(02) 日本文学における住まい(04) フランス文学(03)
4 13:15~14:05	英語(03) フランス語(02) 中国語入門(05) スペイン語(03) 日本語(02)-外国語としての- 基礎看護学(04)		比較技術の文明論(02) アジアの風土と服飾文化(04) 社会福祉の国際比較(02) バイオテクノロジーと社会(05) 物質の科学・有機構造解析(03) 細胞生物学(03)	線型代数入門(03) 物質の世界-化学入門(02) 衣生活の科学(02) 経営学(03) 管理会計(03) 宇宙からの情報(05)	感情と認知(03) 紛争と民法(02) 第三世界の政治(05) 博物館資料論(04)	人間科学の可能性(03) 障害児教育論(02) 現代行政分析(04) ジェンダーの社会学(03) ドイツ観念論への招待(03)	英語(03) 英語(02) 英語総合A(05) ドイツ語(02) フランス語(02) 中国語入門(05) 韓国語(02)
5 14:25~15:15	英語(03) ドイツ語(02) フランス語(02) ロシア語入門(05) 韓国語(02) 日本語(03)-外国語としての- 保健体育(05) 在宅看護論(04)		現代社会におけるライフコース(03) 患者からみた医療(03) 経営工学総論(04) 流体的地球像(03)	人体の構造と機能(05) 計算科学(03) 地域福祉論(03) 人間活動の環境影響(05)	統計学入門(04) 老年期の心理と病理(02) 環境社会学(03) 仏教の思想(05) ヨーロッパの歴史(05) 博物館経営・情報論(04) イギリス文学(03)	現代思想の地平(05) 生涯学習と自己実現(02) 自己を見つめる(02) 日本の古典-古代編(05) ドイツの言語文化(02)	英語基礎A(05) ドイツ語(02) 中国語(04) ロシア語入門(05) スペイン語(03)
6 15:35~16:25	変化する地球環境(04) 実験科学の方法(02) 生活の経済(04) マスメディア論(03) 物質の科学・量子化学(03)		物理の世界(03) 世界の食糧問題とフードシステム(03) 簿記入門(02) 都市システム工学(03) 多変数の微積分(03) 光と電磁場(05)	疾病の成立と回復促進(05) 若者の科学離れを考える(04) 技術の分析と創造(02) ネットワーク産業論(04) 天体物理学入門(03)	社会調査(05) カウンセリング概説(05) 経済法(04) 現代東アジアの政治(04) 応用音楽学と民族音楽学(04)	近代哲学の射程(03) 家庭・学校と地域社会(04) 学習科学とテクノロジー(03) 裁判の法と手続(04) ヨーロッパ政治史(05) 東アジアの中の中国史(03) フランスの言語文化(02)	政治学入門(03) 財政学(05) 日本の散文-古典編(03) 東南アジアの歴史(02) 芸術の理論と歴史(02)
7 16:45~17:35	宇宙とその歴史(04) 東アジア・東南アジアの住文化(03) リハビリテーション(03) 産業と労使(03) 持続的発展と国際協力(03) 情報技術と社会(05) 量子力学(05)		確率・統計の基礎(05) 都市と人間(03) 企業ファイナンス入門(04) 統計学とその応用(05) 動物の行動と生態(04)	看護学概説(05) 高齢者福祉論(03) イノベーション経営(05) 数学とコンピュータ(03) 物質の科学・反応と物性(04)	人文地理学(04) 日本国憲法(05) 近代的教育思想(03) 心理臨床の世界(03) ヘーゲルを読む(03) 日本の古代(05) 中世日本の物語と絵画(04)	現代社会と著作権(02) 近代詩歌の歴史(04) 教育の方法(04) 応用心理学(05) 比較政治学(04) 科学の哲学(04) 博物館概論(03) 中国の言語文化(02)	発達と教育の心理学的基盤(05) 生涯発達心理学(02) 欧米経済史(04) フィールド社会学(04) 朱子学と陽明学(04) 中世日本の歴史(03) 現代における伝統演劇(02)
8 17:55~18:45	宇宙像の変遷と科学(04) 脳と健康科学(02) 会計学(04) 日本の製造業の新展開(05) 計算力学(04) 数理モデルとカオス(05) 生命と金属の世界(05)		国際経営論(05) 生物学の歴史(05) 日本の食文化(04) 生活の動態と経営(05) マーケティング論(04) 進化する宇宙(05)	基礎生物学(03) 使える数理リテラシー(03) 公衆衛生(05) エネルギー工学と社会(03)	東アジアのなかの日本文化(05) 乳幼児心理学(02) スクールカウンセリング(05) 雇用・福祉・家族と法(03) 中央アジアの歴史・社会・文化(04) 文化人類学(04)	21世紀の社会学(05) 世界の産業再編成(04) 臨床心理学概説(03) 日本政治思想史(05) 上代の日本文学(04) 古代地中海世界の歴史(04) 20世紀の中国文学(05)	生命と人生の倫理(05) 表象としての日本(04) 教育の社会文化史(04) 幼児の教育と保育(04) 産業社会と消費社会の現代(03) 自我の社会学(05) 近世の日本文学(03) 近世日本の歴史(03)

# 平成17年度学部開設改訂科目一覧

区分 専攻等	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等	再履修	平成16年度限り 閉講科目	
共通科目	人文系	発達と教育の心理学的基盤(05)	2	R	波多野 諄余夫 稲垣 佳世子	放送大学教授 千葉大学教授		教育心理学通論(01)
		倫理思想の源流(05)	2	R	関根 清三	東京大学大学院教授	否	倫理思想の源流(01)
		生命と人生の倫理(05)	2	TV	清水 哲郎 伊坂 青司	東北大学大学院教授 神奈川大学教授		
		現代思想の地平(05)	2	R	石田 英敬	東京大学大学院教授		
		東アジアのなかの日本文化(05)	2	R	村井 章介	東京大学大学院教授		
	社会科学系	日本国憲法(05)	2	TV	大石 眞	京都大学大学院教授		立憲主義と日本国憲法(01)
		21世紀の社会学(05)	2	TV	船津 衛 山田 真茂留 浅川 達人	東洋大学教授 早稲田大学教授 放送大学助教授		社会学入門(01)
		社会調査(05)	2	TV	原 純輔 浅川 達人	東北大学大学院教授 放送大学助教授		社会調査の基礎(01)
		国際経営論(05)	2	TV	吉原 英樹	神戸大学教授		日米欧の企業経営(01)
	自然系	確率・統計の基礎(05)	2	R	釜江 哲朗	大阪市立大学大学院教授	否	確率と統計(01)
		生物学の歴史(05)	2	R	溝口 元 松永 俊男	立正大学教授 桃山学院大学教授		生物学の歴史(01)
		疾病の成立と回復促進(05)	2	TV	北村 聖 仙波 純一 松尾 三子	東京大学大学院教授 放送大学教授 鳥取大学教授	否	疾病の成立と回復促進(01)
		人体の構造と機能(05)	2	TV	菱沼 典子 北村 聖	聖路加看護大学教授 東京大学大学院教授	否	人体の構造と機能(01)
	外国語科目	英語基礎A(05)	2	R	大石 和欣 大橋 理枝	放送大学助教授 放送大学助教授		英語Ⅰ(01)
		英語総合A(05)	2	R	草光 俊雄 大石 和欣	東京大学大学院教授 放送大学助教授		英語Ⅴ(01)
		中国語入門Ⅰ(05)	2	TV	木村 英樹 宮本 徹	東京大学大学院教授 放送大学助教授		中国語Ⅰ(01)
		中国語入門Ⅱ(05)	2	R	木村 英樹 宮本 徹	東京大学大学院教授 放送大学助教授		中国語Ⅱ(01)
		ロシア語入門Ⅰ(05)	2	R	安岡 治子 西中村 浩	東京大学大学院助教授 東京大学大学院教授		ロシア語Ⅰ(01)
		ロシア語入門Ⅱ(05)	2	R	西中村 浩 安岡 治子	東京大学大学院教授 東京大学大学院助教授		ロシア語Ⅱ(01)
	体育保健	保健体育(05)	2	TV	宮下 充正 臼井 永男	放送大学教授 放送大学助教授	否	保健体育(01)

区分 専攻等	科目名	単 位 数	メ ディ ア	主任講師	現職等	再履修	平成16年度限り 閉講科目
生活と福祉	生活の動態と経営(05)	2	R	奈良 由美子 石川 實	放送大学助教授 放送大学奈良学習センター所長		生活の経営(01)
	服飾と心理(05)	2	TV	藤原 康晴 中川 早苗 伊藤 紀之	放送大学教授 広島国際学院大学教授 共立女子大学教授		
	公衆衛生(05)	2	R	多田羅 浩三 瀧澤 利行	放送大学教授 茨城大学教授		公衆衛生(01)
	看護学概説(05)	2	R	佐藤 禮子	放送大学教授	否	看護学概説(01)
	障害者福祉論(05)	2	R	大曾根 寛 小澤 温	放送大学教授 東洋大学教授	否	障害者福祉(01)
発達と教育	心理学史(05)	2	TV	西川 泰夫 高砂 美樹	放送大学教授 東京国際大学教授		
	応用心理学(05)	2	TV	神作 博	中京大学教授		
	道徳教育論(05)	2	TV	新井 郁男 犬塚 文雄 林 泰成	放送大学教授 横浜国立大学教授 上越教育大学助教授		
	カウンセリング概説(05)	2	R	馬場 謙一 橘 玲子	中部大学教授 放送大学教授	否	カウンセリング概説(01)
	スクールカウンセリング(05)	2	TV	滝口 俊子 倉光 修	放送大学教授 大阪大学大学院教授		
社会と経済	刑法(05)	2	R	川端 博	明治大学教授	否	刑法(01)
	ヨーロッパ政治史(05)	2	R	平島 健司 飯田 芳弘	東京大学大学院教授 学習院大学教授		ヨーロッパ政治史(01)
	第三世界の政治(05)	2	R	高橋 和夫	放送大学助教授	否	第三世界の政治(01)
	日本政治思想史(05)	2	R	宮村 治雄	東京都立大学教授		日本政治思想史(01)
	西洋政治思想史(05)	2	R	川出 良枝 山岡 龍一	東京都立大学教授 放送大学助教授	否	西洋政治思想史(01)
	現代経済学(05)	2	TV	賀川 昭夫	東京経済大学教授		現代経済学(01)
	国際経済学(05)	2	R	大山 道広	東洋大学教授	否	国際経済学(01)
	財政学(05)	2	TV	井堀 利宏	東京大学大学院教授		経済学入門(01)
	自我の社会学(05)	2	R	船津 衛	東洋大学教授		メディア論(01)
	イノベーション経営(05)	2	TV	亀岡 秋男 古川 公成	北陸先端科学技術大学院大学教授 中村学園大学教授	否	イノベーション経営(01)
産業と技術	日本の製造業の新展開(05)	2	R	森谷 正規 小田切 宏之	放送大学教授 一橋大学大学院教授		
	ベンチャー企業論(05)	2	R	柳 孝一 長谷川 博和	早稲田大学大学院教授 グローバルベンチャーキャピタル(株)社長	否	ベンチャー企業論(01)
	物質・材料工学と社会(05)	2	TV	岸 輝雄 小口 信行 堀 隆夫	独立行政法人 物質・材料研究機構理事 独立行政法人 物質・材料研究機構ナノ テリアル研究所副所長 東京医科歯科大学教授		材料工学と社会(01)
	バイオテクノロジーと社会(05)	2	TV	軽部 征夫	東京工科大学教授	否	バイオテクノロジー(01)
	情報技術と社会(05)	2	TV	大岩 元 辰己 丈夫	慶應義塾大学教授 東京農工大学助教授		情報工学と社会(01)
	人間活動の環境影響(05)	2	TV	鈴木 基之 原科 幸彦	放送大学教授 東京工業大学大学院教授		

区分 専攻等	科目名	単 位 数	メ ディ ア	主任講師	現職等	再履修	平成16年度限り 閉講科目	
人間の探究	仏教の思想(05)	2	R	木村 清孝	国際仏教学大学院大学教授		仏教思想(01)	
	日本語の歴史(05)	2	R	近藤 泰弘 月本 雅幸 杉浦 克己	青山学院大学教授 東京大学大学院助教授 放送大学助教授	否	日本語の歴史(01)	
	日本の古典・古代編(05)	2	R	鈴木 日出男 多田 一臣 藤原 克己	成蹊大学教授 東京大学大学院教授 東京大学教授		平安朝の文学(01)	
	近代の日本文学(05)	2	R	野山 嘉正 安藤 宏	放送大学教授 東京大学大学院助教授		近代の日本文学(01)	
	日本の古代(05)	2	TV	佐藤 信	東京大学大学院教授			
	ヨーロッパの歴史(05)	2	TV	江川 温	大阪大学大学院教授		ヨーロッパの歴史(01)	
	近代ヨーロッパ史(05)	2	TV	福井 憲彦	学習院大学教授		ヨーロッパと近代世界(01)	
	西洋音楽の諸問題(05)	2	TV	笠原 潔	放送大学助教授		西洋音楽の歴史(01)	
	20世紀の中国文学(05)	2	R	藤井 省三	東京大学大学院教授			
	自然の理解	数理モデルとカオス(05)	2	TV	丹羽 敏雄 長岡 亮介	津田塾大学教授 放送大学教授		カオス学入門(01)
		統計学とその応用(05)	2	R	田栗 正章	千葉大学教授		データの科学(01)
		運動と力(05)	2	TV	兵頭 俊夫	東京大学大学院教授	否	運動と力(01)
		光と電磁場(05)	2	TV	中山 正敏 櫻井 捷海	放送大学教授 東京大学名誉教授	否	光と電磁場(01)
		量子力学(05)	2	TV	市村 宗武 大西 直毅	法政大学教授 東京国際大学教授	否	量子力学(01)
		生命と金属の世界(05)	2	R	原口 紘丞	名古屋大学大学院教授		微生物機能に学ぶ化学(01)
分子生物学(05)		2	TV	石川 統	放送大学教授	否	分子生物学(01)	
進化する宇宙(05)		2	TV	杉本 大一郎 吉岡 一男	放送大学教授 放送大学助教授		宇宙の進化(01)	
宇宙からの情報(05)	2	TV	吉岡 一男 杉本 大一郎	放送大学助教授 放送大学教授		宇宙の観測(01)		

夏季集中型科目

得 司 に 資 教 諭 資 格 取 る 取 得 に 資 す る 科 目	学校図書館メディアの構成(05)	2	R	高鷲 忠美 志保田 務 北 克一	八洲学園大学非常勤講師 桃山学院大学教授 大阪市立大学教授		学校図書館メディアの構成(00)
	学習指導と学校図書館(05)	2	TV	橋 元夫 堀川 照代 平久江 祐司	慶應義塾大学非常勤講師 島根県立島根女子短期大学教授 筑波大学助教授		学習指導と学校図書館(00)
	情報メディアの活用(05)	2	TV	山本 順一 村山 功 岸田 和明	筑波大学教授 静岡大学教授 駿河台大学教授		情報メディアの活用(00)
取 得 に 資 す る 科 目	成人看護学(05)	2	R	佐藤 禮子	放送大学教授		
	小児看護学(05)	2	TV	筒井 真優美	日本赤十字看護大学教授		
	母性看護学(05)	2	TV	小松 美穂子	茨城県立医療大学副学長		

(注)1「メディア」欄のTVはテレビ、Rはラジオです。

2「現職等」は、平成16年10月現在のものです。

3「平成16年度限り閉講科目」及び以下の科目は、平成16年度限りで閉講となります。

現代アメリカ思想(01)、歴史学の現在(01)、科学の思想と論理(01)、現代社会とスポーツ(01)、家族論(01)、母子の健康科学(00)、がんの健康科学(01)、知覚心理学(01)、労働と生活の心理学(01)、子どもと若者の文化(01)、現代産業組織論(01)、現代の哲学(01)、古代日本の歴史(01)、中国明清時代の文学(01)

4「再履修」欄が「否」の開設改訂科目については、対応する「平成16年度限り閉講科目」の単位修得者は履修できません。

5夏季集中型科目は、第1学期集中放送授業期間にのみ開設します。単位を修得しても本学の卒業に必要な単位に算入されません。

# 平成17年度大学院開設改訂科目一覧

区分	科目名	単位数	メディア	主任講師	現職等	再履修	平成16年度限り閉講科目	
文化情報科学群	言語文化研究I( 05 )	2	R	工藤 庸子 池上 俊一	放送大学教授 東京大学大学院教授		言語文化研究I( 02 )	
	言語文化研究III( 05 )	2	R	姫野 昌子 上野 田鶴子 井上 史雄	放送大学教授 元東京女子大学教授 東京外国語大学教授			
	情報化社会研究( 05 )	2	TV	柏倉 康夫	放送大学教授		情報化社会研究( 02 )	
	日本文化研究( 05 )	2	R	高木 昭作 末木 文美士	放送大学教授 東京大学大学院教授		日本文化研究( 02 )	
	比較文化研究( 05 )	2	TV	宮本 みち子	千葉大学教授		比較文化研究( 02 )	
	文化人類学研究( 05 )	2	TV	本多 俊和(スチュアートヘリ) 大村 敬一 葛野 浩昭	放送大学教授 大阪大学大学院助教授 聖心女子大学助教授		文化人類学研究( 02 )	
	国際社会研究I( 05 )	2	TV	木 保興	東京大学大学院教授		国際社会研究I( 02 )	
	数理システム科学( 05 )	2	R	熊原 啓作 砂田 利一	放送大学教授 明治大学教授	否	数理システム科学( 02 )	
	地球環境科学( 05 )	2	TV	木村 龍治 藤井 直之 川上 紳一	放送大学教授 名古屋大学大学院教授 岐阜大学教授		地球環境科学( 02 )	
	物質環境科学I( 05 )	2	TV	濱田 嘉昭 田隅 三生	放送大学教授 埼玉大学学長		物質環境科学I( 02 )	
環境システム科学群	生命環境科学I( 05 )	2	TV	松本 忠夫	東京大学大学院教授		生命環境科学I( 02 )	
	生活科学I( 05 )	2	R	中谷 延二 小城 勝相 菊 泰枝	放送大学教授 奈良女子大学教授 大阪市立大学大学院助教授		生活科学I( 02 )	
	健康科学( 05 )	2	TV	多田 羅 浩三 瀧澤 利行	放送大学教授 茨城大学教授		健康科学( 02 )	
	政策経営プログラム	経営システムII( 05 )	2	R	吉森 賢	放送大学教授		経営システムII( 02 )
		経済政策I( 05 )	2	TV	林 敏彦	放送大学教授	否	経済政策I( 02 )
		経済政策( 05 )	2	R	土居 丈朗	慶應義塾大学助教授		経済政策I( 02 )
		地方自治政策I( 05 )	2	TV	天川 晃 澤井 勝 北村 喜宣	放送大学教授 奈良女子大学教授 上智大学大学院教授		地方自治政策I( 02 )
	教育開発プログラム	教育文化論( 05 )	2	R	住田 正樹 鈴木 晶子	九州大学大学院教授 京都大学大学院教授		教育文化論( 02 )
学校臨床心理学( 05 )		2	R	滝口 俊子	放送大学教授	否	学校臨床心理学( 02 )	
臨床心理プログラム	臨床心理学特論( 05 )	4	R	橘 玲子 齋藤 高雅	放送大学教授 放送大学教授	否	臨床心理学特論( 02 )	
	社会心理学特論( 05 )	2	TV	大橋 英寿 細江 達郎	放送大学副学長 岩手県立大学教授	否	社会心理学特論( 02 )	
	学校臨床心理学( 05 )( )	2	R	滝口 俊子	放送大学教授	否	学校臨床心理学( 02 )	

(注)1「メディア」欄のTVはテレビ、Rはラジオです。  
 2「現職等」は、平成16年10月現在のものです。  
 3「再履修」欄が「否」の開設改訂科目については、対応する「平成16年度限り閉講科目」の単位修得者は履修できません。  
 4( )は教育開発プログラムより再掲です。

# 教務のお知らせ

## 大学院修士選科生の学生募集が始まります。

平成17年度第1学期から大学院修士選科生が新設されることになりました。  
 大学院修士選科生の修業期間は1年間です。授業料等については、下記のとおりです。

区分	入学料	授業料
大学院修士選科生	16,000円	1単位につき、10,000円

## 入学料が改定されます。

平成17年度第1学期から入学料が改定になります。詳細については、下記のとおりです。

区分		平成16年度第2学期まで	平成17年度第1学期から
学部	全科履修生	20,000円	22,000円
	選科履修生	7,000円	8,000円
	科目履修生	5,000円	6,000円
大学院	修士全科生	40,000円	44,000円
	修士選科生	- - -	16,000円
	修士科目生	10,000円	12,000円

## 平成16年度放送大学学位記授与式について

平成16年度学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせします。

日時:平成17年3月12日(土)午前11時00分から  
 場所:東京ベイN.K.ホール(千葉県浦安市舞浜1-8)

## 平成15年度限り閉講科目の単位認定試験問題公表について

今年度から、すでに閉講になった科目で、主任講師より承諾が得られた科目について、単位認定試験問題を公表することといたしました。詳細は、以下のとおりです。

- 公表の対象科目・・・平成15年度で閉講した科目(平成15年度第1学期、平成15年度第2学期及び平成16年度第1学期実施分)
- 公表の方法・・・(1)学習センターにおける閲覧  
 (2)キャンパス・ネットワークのホームページ掲載  
 ・試験問題に他の著作物(文献引用等)が使用されている場合には、その部分を閲覧及び掲載できないことがあります。  
 ・試験問題の複写を希望される場合は、放送大学文献複写規程に基づき有料となります。
- 公表の時期(期間)・・・平成16年12月中旬頃(約1年間)

## 教養学部学生及び 大学院修士選科生・修士科目生募集

放送大学教養学部・大学院文化科学研究科では、平成17年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成16年11月15日(月).....平成17年度第1学期教養学部  
修士選科生・修士科目生学生募集要項配布開始  
平成16年12月15日(水)~  
平成17年2月28日(月).....出願受付(教養学部学生・修士選科生・修士科目生)  
2月上旬~3月中旬.....合格通知等  
2月上旬~3月31日(木).....学費の納入  
2月中旬~4月中旬.....入学許可通知・印刷教材等の配送  
4月1日(金).....平成17年度第1学期授業開始

・放送大学では、平成17年4月1日から始まる新学期の学生募集を行います。  
・募集要項(出願書類を含む)は、各地の学習センター、大学本部などで直接配布しているほか、郵送(ハガキ)や放送大学のホームページからも請求できますので、ご利用ください。募集要項・送料は無料です。

・この機会に放送大学に関心をお持ちのご友人、ご親戚他お知り合いの方にご紹介いただき、入学をお薦めくださいますようお願いいたします。  
また、平成17年3月末で学籍が切れる方が、平成17年度第1学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要です。なお、その際は入学金が割引になります。

修士の学位の取得を目指す「大学院修士全科生」の学生募集(年1回)は終了しました。

出願締切日は平成17年2月28日(月)必着です。

募集要項請求専用フリーダイヤル  
0120-864-600

### 平成17年度第1学期の科目登録申請について

次学期も引き続き学籍のある在学学生を対象に「平成17年度第1学期科目登録申請要項」を1月上旬に送付します。

平成17年度第1学期の放送授業及び面接授業(毎週型・土日型)の科目登録申請期間は次のとおりです。

#### 申請期間

平成17年1月27日(木) [消印] ~ 平成17年2月10日(木) [必着]

1月中旬になっても未着、あるいは紛失した場合は、大学本部もしくは各学習センターにお問い合わせください。

詳しくは「学生生活の菜」をご覧ください。

## 編集後記

今回は、放送大学における開講科目に関連して、キャリアアップを目指すことが可能なもののいくつかを紹介する記事が掲載されています。世の中には実に様々な資格があります。一口に資格といっても、国家資格から、公的機関によるもの、学会や各種協会、民間機関によるものまで実に数多くのものがあります。これらの資格の多くは、社会の状況に応じて必要とされ、そのために基準を設けて明確化していこうという動きの中で、生まれてきたものです。しかし、資格を得てそれを実際に生かすことができるかどうかは人により様々です。どのような資格なら生かせるかを見極め、資格を取得し、活用していくことも一考に値するのではないのでしょうか。

(齋藤高雅)

### 大学通信編集委員会

(平成16年度)

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	同	香山壽夫
委員	同	齋藤高雅
〃	同	長岡亮介
〃	助教授	奈良由美子
〃	同	山岡龍一
〃	同	青山昌文
〃	同	杉森哲也

(編集事務担当  
教務部学生サービス課)



放送大学学園

http://www.u-air.ac.jp/hp  
ISSN 1343-3369

R100